

ディスカッション再考

—書き言葉による議論の進め方—

と き：2月4日～3月3日

定 員：20名（申込先着順）

全4回、

4回連続で参加できる方を優先

いずれも昼2時～4時

タイピングなどの基本的な操作に
慣れている方が対象です

と ころ：

申 込：1月9日（火）朝9時～

公民館3階 講座室

下のQRコードからお申込み下さい



現在、私たちはインターネットを介したコミュニケーションツールを日常的に用いています。特にコロナ禍以降、映像と音声とを使用するツールがより身近になり、ますますその依存度は大きくなっています。こうした環境の中で“議論”もまた頻繁におこなわれるようになりました。

しかしその“議論”を注意深く観察してみると、相手が何を言っているのか、自分が何を言っているのかをしっかりと理解するという“議論”の基本が疎かになっているケースが目立ちます。とはいえこれは昔からよくあること。むしろコロナ禍を経てようやく日常的なディスコミュニケーションの様相が露わになったと言えるでしょう。

相手の言葉をよく理解し、自分の使う言葉をよく吟味するにはどうしたらよいのか。この講座では、主に書き言葉を用いて時間をかけて言葉の精査をおこなう、という課題に取り組みながら、皆さんと一緒に“議論”の基本に立ち返ってみたいと思います。

- ◆第1回：2月4日（日）「“コメント”を吟味して書いてみよう」
- ◆第2回：2月11日（日）「“良い対話”とは何か考えてみよう」
- ◆第3回：2月25日（日）「“対話”を編集して“議論”にしてみよう」
- ◆第4回：3月3日（日）「“議論”とは何か考えてみよう」

講師：

浦野歩、長田祥一、下山田周平

（言語社会研究科修了）

納谷耕世（同研究科博士課程）

他



* 言語社会研究科修了生数名で現在開発中の、書き言葉を用いるディスカッションアプリを使用します。ご参加にあたり可能であればPCをご持参くだされば幸いです。難しい場合には貸し出しいたしますので、講座申込時にご希望をお知らせください。